

2年	課題（現状、傾向、課題分析）	改善プラン（改善のための具体策や取り組み）	成果と課題
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すすんで読書活動に取り組んでいるが、物語や図鑑など本の種類に偏りが見られる。</li> <li>・既習の漢字は定着してきているが、日常の中で使うことや、漢字、平仮名、片仮名を使い分けて書くことに課題がある。</li> <li>・全体で話し合う学習場面での発言には、個人差や苦手意識が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館から学習内容に合った図書を選出し、様々な本に触れる機会を意図的に作る。読書期間を設け、読書貯金カードを使用して意欲を高める。</li> <li>・絵日記や作文を書く活動で、文章を書いた後に、漢字の活用や正しい表記ができていないかを読み返し、使い分けの知識を増やしていく。</li> <li>・話し合うポイントや話し方の具体例を示したり、話し合いを始める前に数名の児童と意見を共有したりしてから、全体で話し合うことで、発言への不安を減らし、苦手意識を低減する。</li> </ul>	
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを図や数字、言葉、式などで分かりやすく伝えることに課題がある。</li> <li>・文章問題の題意を捉え、立式することはできるが、どのように考えたのかを表現することに課題がある。</li> <li>・問題の文言や形式の変化にかかわらず、問われていることをつかむことに課題がある。</li> <li>・長さ（mm, cm, m）や水のかさ（mL, dL, L）の単位の換算に課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器を活用する。タブレット端末を用いて自分の考えを表したり、実物投影機を使って分かりやすい表現の仕方を価値付けたりすることで共有していく。</li> <li>・立式することだけでなく、既習事項を基に図や言葉を用いて考え方を表現する活動を毎時間取り入れる。</li> <li>・様々な練習問題に取り組み、多様な考え方で問題に取り組む経験を増やす。</li> <li>・具体的な操作活動を通して量感を捉えながら、練習問題に繰り返し取り組む。</li> </ul>	
生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気付いたことや考えたことを絵や文で表現できるが、個別な対応が必要である。</li> <li>・様々な人とすすんで関わる児童が多く見られるが、そこから新しい問いをもったり、気付きを広げたりする力を身に付ける必要がある。</li> <li>・身近な地域にある施設や店、会社などについてすすんで調べる児童が多いが、日常生活と結び付けて考えることは今後の課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分かりやすく伝えたり、正しく伝えたりできるように、友達の良い表現を取り上げて紹介する。見えた通りに絵で描いたのか、考えたことの根拠は何かなど、個の実態に応じて深く考えられるよう支援する。</li> <li>・多様な人と関わって気付きを広げられる活動を計画的に設定する。</li> <li>・児童の日常生活に結び付けられるように、地域と連携する単元計画を立てる。</li> </ul>	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音の高さや長さに注目して聴いたり歌ったりすることに課題がある。</li> <li>・鍵盤ハーモニカを正しい運指で演奏し、フレーズに合った表現をすることに課題がある。</li> <li>・鑑賞の学習では曲の楽しさや拍の面白さを見いだして聴くことに手だてを講じる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱の学習では少人数のグループに分け、お互いの歌唱を聴き合う時間を設ける。</li> <li>・鍵盤ハーモニカの正しい運指やフレーズに合った息の使い方を提示し、個別に吹く時間を設定し、技能を高めていく。</li> <li>・鑑賞教材では、様々な表現方法に気付けるような言葉カードやリズム図形の提示をし、拍を体で感じながら聴く活動を充実させる。</li> </ul>	
図工	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動を楽しむ児童は多いが、遊びながら発想を広げたり深めたりすることに課題がある。</li> <li>・道具（のり・はさみ・クレパス・水彩絵の具・カッター）の基本的な扱い方を身に付けていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びながら作ったり、作ったもので遊んだりできる題材を設定したり、友達の作品を鑑賞して良さや工夫を共有したりする場面を設定する。</li> <li>・題材設定時に、使用する道具や材料の目的やねらいをはっきりとさせ、スモールステップで取り扱いを身に付けられるよう学習の展開を工夫する。</li> </ul>	
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育が好きな児童は多いが、走の運動遊びやボールを使った運動遊び、マットを使った運動遊びなどの技能を高める必要がある。</li> <li>・めあてを立てたり、振り返って改善したりする学習サイクルを身に付けていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びや体づくりの運動を学習の中に多く取り入れ、児童の意欲を高めながら、学習を進める。ペアやグループでの活動を取り入れ、互いに教え合いながら、協力して学ぶ場面を設ける。</li> <li>・学習カードを活用して、毎時間の課題を確認して自分のめあてを立てたり、学習を振り返ったりする経験を多く積み重ねる。</li> </ul>	